

## 2025 年度予防医学センター主催ジュネーブ国連・国際機関訪問研修ツアー開催報告

(文責・戸高恵美子)

日時：2025 年 9 月 23 日～26 日

場所：スイス、ジュネーブ

目的：グローバル人材育成

参加者：

(学生)

千葉大学大学院医学薬学府博士課程 7 名

同修士課程 3 名

大学院看護学研究科 4 名

医学部学生 1 名

学生合計 15 名

(引率教員およびスタッフ)

教員 3 名、スタッフ 1 名

概要：

2013 年から始まった本センターのジュネーブ研修は新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの時期を除き毎年秋に開催し、今回で 11 回目でした。アメリカが多くの国連・国際機関への資金拠出を停止したことにより、現場はどこも困難な状況に直面しています。しかしこの困難な時期においても、各機関のスタッフの皆様はひと時も休むことなく激務に励んでいらっしゃいます。この激動の時期にジュネーブで国連機関のスタッフの皆様に直接お話を伺えたのはとても貴重な経験でした。本研修では、4 日間で 7 つの国連機関、2 つの国際機関、そして外務省の出先機関であるジュネーブ国際機関日本政府代表部の合計 10 か所を訪問しました。

プログラム：

訪問先は、日付順に WMO (世界気象機関)、UNHCR (国連難民高等弁務官事務所)、UNITAR (国連訓練調査研究所)、UNICEF (国連児童基金)、ILO (国際労働機関)、WHO (世界保健機関)、MSF (国境なき医師団)、IFRC (国際赤十字赤新月社連盟)、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部、UNOG (国連ジュネーブオフィス)。UNHCR と UNITAR のお二方には、WMO の会議室までおいでいただきてお話を伺いました。

二日目の WHO 訪問の際は、本館内の会議室を終日お借りし、6 名の日本人職員の皆様、3 名の海外職員の皆様にお話を伺うことができました。ランチタイムには日本人 JPO\* の皆さんにお集まりいただき、学生たちと親しくランチをご一緒しながら懇談していただきま

した。

WHO は、その活動資金の 20%以上をアメリカが分担していましたが、アメリカが撤退することになり、活動の多くが中断を余儀なくされ、多くのスタッフも雇用継続ができなくなりました。これから世界の公衆衛生がどうなるのか心配になりますが、それでもスタッフの皆様は一心に自分の業務をこなしていらっしゃいます。

以前は 12 名いた ADG (事務局長補) も 6 名に減りました。その中で唯一の日本人である 中谷 佑貴子 先生にも講義をご担当いただきました。実は中谷先生は千葉大学大学院で博士号を取得されましたので、学生たちにとっては大先輩です。激務をこなす毎日なのに、まったくそのようなご様子は見せず、淡々と笑顔でお話しされるのはさすがです。

一方、MSF では、国連機関とは異なり紛争や天災に見舞われた国々の現場に派遣されて命の危険と隣り合わせで活動するスタッフのお話を伺うことができました。その後、MSF から徒歩 10 分で行ける ILO のカフェテリアで、別の JPO の皆様にお集まりいただき、親しく懇談しました。学生にとり、どのようなバックグラウンドの皆さんがどのように国連で働く機会を得たのか、現場の仕事の面白さ、チャレンジはどのようなものがあるか、など直接伺う貴重な機会となりました。

研修プログラムは以下の表のとおりです。

時間	9月23日(火)	9月24日(水)	9月25日(木)	9月26日(金)
9:00	9:00 WMO 正面集合 研修の諸注意・確認 Lake7 会議室へ	9:00 WHO 本館集合 W1 会議室へ	9:30 MSF (国境なき医師団) 10:00-11:30	10:00 UNOG 前集合 (Pregny Gate, 14 Avenue de la Paix)
10:00	10:00 WMO 「気象・気候・水・地球環境」  10:45 「UNHCR の果たす役割」	10:00 -10:30 「WHO の組織・運営について」  10:30 -11:00 「PFAS と健康」		10:30 -11:30 UNOG 施設内見学 ガイドツアー
11:00	11:15 UNITAR 「UNITAR の仕事とは?」  11:45 ランチ@WMO カフェテリア	11:00 -11:30 「WHO の役割」  11:30 -12:00 「水環境と健康」	12:00 ランチ@ILO カフェテリア  12:00 -14:00 JPO の皆様とのランチョン懇談会	12:00 公共交通機関を使ってランチ報告会会場へ
12:00				
13:00				
14:00	14:00 -15:30 UNICEF@ Lego room 「UNICEF の役割」	14:00 -14:30 「予防・健康増進」	14:00 -15:00 IFRC 「IFRC とその活動」	13:30 -16:30 エクスカーション 「公衆衛生とヨーロッパの戦争の歴史の観点から見るジュネーブ市内見学」
15:00	15:30 -16:30 ILO (4-98) 「Job creation through public investment」 「ILO Social Finance」	14:30 -15:00 「WHO の感染症対策」  15:00 -15:30 「産婦人科医から WHO へ」	15:15 - 16:15 在ジュネーブ国際機関日本政府代表部 「国際的な仕事をするには」	
16:00		15:45 -16:30 WHO 本部見学ツアー		
17:00				



WHO 本館



WHO 本館内にて



## IFRC にて

おわりに：わずか4日間の研修でしたが、ハードなスケジュールにもかかわらず、学生たちは講義中居眠りすることもなく、生き生きと初めてのジュネーブ、初めての国連訪問を楽しみ、多くを学んで全員無事帰国することができました。世界はますます混とんとしてきましたが、日本にしかできないミッションがあるはずです。この研修で学んだことを将来の仕事の現場で生かしてもらい、ぜひとも世界にはばたき、世界の中の日本の存在感を高める仕事をしてもらえると主催者の一人としてはとてもうれしいです。

謝辞：本プログラムは、先進予防医科学大学院の予算以外に、千葉大学 ENGINE（全員留学）部局独自プログラム支援金、株式会社山田養蜂場様からの寄付金をいただき開催しました。ここに厚く御礼申し上げます。

\*JPO（ジュニア・プロフェッショナルオフィサー）

各国政府が経費を負担し、国連機関から雇用される35歳以下のオフィサー